



赤十字飛行隊について

赤十字飛行隊 熊本支隊

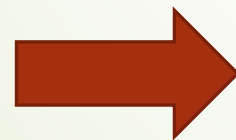
赤十字飛行隊の設立

- ▶ 昭和37年 湘南海岸で頻発する海難事故に対応するため、神奈川県藤沢飛行場を基地としていた社団法人日本飛行連盟がパトロール飛行を開始
- ▶ 昭和38年 日本赤十字社の認可を得、「赤十字飛行隊」を設立。

【母体】 社団法人日本飛行連盟

【目的】

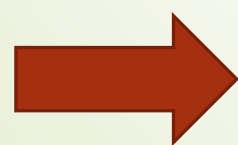
- ・ 航空機を利用して、日本赤十字社が行う災害救護活動に無償で従事
- ・ 日本赤十字社が行う人道的事業に進んで協力



日本赤十字社本社直轄の赤十字奉仕団として、
全国39支隊・隊員数約200名で活動中

活動実績①1985年 御巢鷹山日航機墜落事故

- 調布支隊から飛行機1機を派遣。現場と日赤本社間の無線連絡のため、出来るだけ長時間、事故現場の上空に滞空し、無線の中継基地となることが任務
- 事故現場はマスコミのヘリ多数で混雑、スモッグ発生、視程も悪い状況
- 安全を考慮し高度3千メートルを維持しつつ、関宿のVOR/DME局を利用して、常時その現場上空から離れないよう緩旋回を続けた

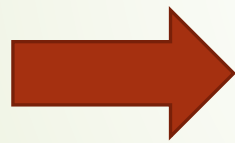


各種無線連絡を中継し、捜索および事故処理に協力、貢献



活動実績②1991年 雲仙普賢岳火砕流発生

- ➡ 被災地周辺の情報提供が任務
- ➡ 現地に入ることのできない被災住民を搭乗、自宅の被害状況の確認
- ➡ 無線奉仕団と連携し、火砕流の流れる方向、その影響を受けそうな場所、災害の程度などあらゆる情報を提供



多くの方々が何ヶ月、何年も現場に立ち入ることが出来なかったため、噴火が終息するまでの10年間、調査飛行、写真撮影、被災者への被災地案内飛行を実施。

その奉仕活動と情報提供は大変有意義であった。

活動実績③地震発生時の緊急輸送

- ➡ 1993年 北海道南西沖地震 → 救護医師団・救援物資輸送
- ➡ 1995年 阪神淡路大震災
- ➡ 2004年 新潟中越地震 → 救援物資（食料・水・粉ミルク・医薬品など）、緊急血液などを緊急輸送
- ➡ 2011年 東日本大震災 →
- ➡ 2016年 熊本地震

➡ 災害対策本部などへ提供出来るもの、
求められていることに限定し行動
東日本大震災では飛行隊による輸送活動
に対して国土交通大臣から感謝状を拝受

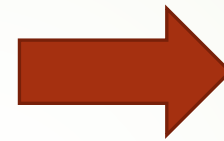


活動実績④ その他の活動

- ▶ 災害救助、医療活動などの分野での相互協力を目的にサハリンフライトを実施
- ▶ 血液・臓器の緊急搬送
 - 2002年に初めての臓器搬送、血液輸送は40年以上の実績。
警察、消防、病院、臓器移植ネットワークなどとの協力体制、連携を深めている。
- ▶ 他機関との合同訓練、地方自治体などとの合同防災訓練実施
 - 【例：赤十字飛行隊 名古屋ヘリコプター支隊】
宇宙航空研究開発機構（JAXA）、一般社団法人災害支援機構、NPO愛知ネットと合同で、通信衛星「きずな」を利用し、災害発生時における緊急通信システムをヘリコプターで空輸するための搭載訓練を実施。（2013年）

赤十字飛行隊 ヘリコプター利用可能な支隊

支隊	設置年月日
群馬ヘリ	平成24年
神奈川	平成13年8月3日
三保	昭和44年
名古屋ヘリ	平成23年年10月7日
長野	平成22年2月9日
和歌山	平成5年
大阪	昭和43年
滋賀	平成28年7月4日
兵庫	平成24年7月27日
佐賀	平成23年6月
熊本	昭和43年
鹿児島	昭和45年



活動中の39支隊中、ヘリの利用が可能なのは左記12支隊

